



2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年11月2日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社KADOKAWA
 コード番号 9468 URL <https://group.kadokawa.co.jp/>
 代表者 (役職名) 取締役 代表執行役社長 CEO (氏名) 夏野 剛
 問合せ先責任者 (役職名) グループ経営企画局長 (氏名) 鈴木 達朗 TEL 03-5216-8212
 四半期報告書提出予定日 2023年11月13日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	124,207	1.3	8,604	△35.0	9,389	△44.4	4,125	△60.8
2023年3月期第2四半期	122,639	17.0	13,237	33.2	16,897	59.3	10,537	48.1

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 7,883百万円 (△40.0%) 2023年3月期第2四半期 13,142百万円 (44.6%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益		EBITDA	
	円	銭	円	銭	百万円	%
2024年3月期第2四半期	29.81		29.80		11,595	△27.2
2023年3月期第2四半期	75.62		75.61		15,923	25.6

(注) EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円	百万円	円	%	円	銭	
2024年3月期第2四半期	320,478		212,083		59.4	1,402.92		
2023年3月期	382,898		223,171		52.9	1,450.27		

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 190,508百万円 2023年3月期 202,548百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円	銭	円	銭	円
2023年3月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2024年3月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2024年3月期（予想）	—	0.00	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益		EBITDA	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭	百万円	%
通期	251,150	△1.7	17,800	△31.4	18,200	△31.8	10,900	△14.0	78.05		24,200	△24.5

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：有
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2024年3月期2Q	141,784,120株	2023年3月期	141,784,120株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	5,989,289株	2023年3月期	2,121,343株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2024年3月期2Q	138,408,246株	2023年3月期2Q	139,340,202株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(四半期連結損益計算書関係)	10
(セグメント情報)	11
(重要な後発事象)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当社グループは、中長期的な成長及び企業価値の向上を図るべく、出版、映像、ゲーム、Webサービス、教育・EdTech事業等において、多彩なポートフォリオから成るIP（Intellectual Property）を安定的に創出し、事業間連携によりIPのLTV（Life Time Value）の最大化を図り、さらに最新のテクノロジーを常に取り入れることで、IPを世界に広く展開する「グローバル・メディアミックス with Technology」を推進することを基本戦略としております。

当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高1,242億7百万円（前年同期比1.3%増）、営業利益86億4百万円（前年同期比35.0%減）、経常利益93億89百万円（前年同期比44.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益41億25百万円（前年同期比60.8%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各セグメントの業績は、以下のとおりです。なお、当第2四半期連結会計期間より、従来「教育事業」としていた報告セグメントの名称を「教育・EdTech事業」に変更しております。この報告セグメントの名称変更がセグメント情報に与える影響はありません。

[出版事業]

出版事業では、書籍、雑誌及び電子書籍・電子雑誌の販売、雑誌広告・Web広告の販売、権利許諾等を行っております。当事業においては、メディアミックス展開の重要な源泉として年間5,000タイトル以上の新作を継続的に発行しており、蓄積された豊富な作品アーカイブが当社グループ成長の原動力となっております。

電子書籍・電子雑誌では、メディアミックス作品を中心とした販売が好調に推移し増収となりました。

書籍・雑誌では、米国における直近数年間の急激な需要増の反動による書店の発注抑制・返品増が継続したこと等により、海外事業が減収となりました。国内では、新刊点数が増加したものの、市場全体の縮小影響が大きかったこと等により減収となりました。新刊では、『山田さんとLv999の恋をする（7）』、『気になってる人が男じゃなかった VOL.1』、『光が死んだ夏（3）』、『パンどろぼうとほっかほっかー』等の販売が売上高に貢献しました。また、ライセンス収入は増収となりました。

費用面では、中長期的な成長を見据えた人員増強、デジタル製造工場・新物流設備への投資等が増加しました。

この結果、当事業の売上高は663億12百万円（前年同期比0.3%増）、セグメント利益（営業利益）は32億55百万円（前年同期比43.2%減）となりました。

なお、さらなる返品削減、製造コスト削減、利益率の向上を目指し、文庫やライトノベル、新書、コミック等のデジタル印刷による小ロット・適時製造を行う書籍製造工場と新物流設備の稼働を開始しております。今後両設備の稼働率を高めることで、さらなる事業の効率性向上を実現してまいります。

[映像事業]

映像事業では、実写映像及びアニメの企画・製作・配給、映像配信権等の権利許諾、パッケージソフトの販売等を行っております。

アニメでは、『【推しの子】』や『この素晴らしい世界に爆焔を！』等、人気タイトルの国内外配信向けやゲーム・グッズ向けを中心としたライセンス収入が好調に推移し、力強く成長しました。実写映像では、『わたしの幸せな結婚』の劇場収入をはじめ、同作の二次利用収入が売上高に貢献し増収となりました。

この結果、当事業の売上高は220億32百万円（前年同期比16.2%増）、セグメント利益（営業利益）は25億4百万円（前年同期比4,046.8%増）となりました。

[ゲーム事業]

ゲーム事業では、ゲームソフトウェア及びネットワークゲームの企画・開発・販売、権利許諾等を行っております。

8月に発売した(株)フロム・ソフトウェアの新作『ARMORED CORE VI FIRES OF RUBICON』の国内の販売が好調に推移したに加え、6月に発売した(株)スパイク・チュンソフトの新作『超探偵事件簿 レインコード』も売上高に貢献したものの、前期の『ELDEN RING』の業績貢献が大きかった影響により、当事業の売上高は136億70百万円（前年同期比20.2%減）、セグメント利益（営業利益）は40億28百万円（前年同期比46.9%減）となりました。

[Webサービス事業]

Webサービス事業では、動画コミュニティサービスの運営、各種イベントの企画・運営、モバイルコンテンツの配信等を行っております。

動画コミュニティサービスでは、動画配信サービス「ニコニコ」の月額有料会員（プレミアム会員）が9月末には128万人となり、前年9月末から減少となったことに加え、投資効果に鑑み一部広告関連サービスを縮小させたことで減収となりました。利益面では、この減収影響に加え、「アニメ」、「ゲーム」等の注力ジャンルへのコンテンツ制作費や、ユーザー体験向上とコスト削減に向けたITインフラへの投資により、減益となりました。

この結果、当事業の売上高は110億円（前年同期比4.7%減）、セグメント利益（営業利益）は6億48百万円（前年同期比31.1%減）となりました。

[教育・EdTech事業]

教育・EdTech事業では、専門校運営及びオンライン教育のための教育コンテンツ・システム提供等を行っております。

クリエイティブ分野の人材育成スクールを運営する㈱バンタンでは、ゲームクリエイターを多く輩出する「バンタンゲームアカデミー」など、グループシナジーが見込めるコースの展開地域拡大を中心とした生徒数増加により、増収となりました。また、インターネットによる通信制高校であるN高等学校・S高等学校等に教育コンテンツ・システムの提供を行う㈱ドワンゴは、同校の通学コース向け新キャンパス開設等による生徒数増加を受け、引き続き好調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は67億2百万円（前年同期比7.0%増）、セグメント利益（営業利益）は11億67百万円（前年同期比11.4%減）となりました。

[その他事業]

その他事業では、ところざわサクラタウン等のIP体験施設運営、キャラクターグッズ等の企画・販売を行うMD事業等を行っております。

IP体験施設運営事業では増収となったことに加え、一部事業撤退の効果により営業利益も改善しました。MD事業では、フィギュアの売上拡大やオンラインくじでのグッズ販売が好調に推移し、成長をけん引しました。また、その他新規事業では一部サービスの拡大により増収となりました。

この結果、当事業の売上高は93億93百万円（前年同期比24.2%増）、セグメント損失（営業損失）は19億25百万円（前年同期 営業損失17億88百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて624億20百万円減少し、3,204億78百万円となりました。これは主に現金及び預金が減少したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べて513億31百万円減少し、1,083億95百万円となりました。これは主に長期借入金を返済したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて110億88百万円減少し、2,120億83百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したことにより利益剰余金が増加した一方、配当金の支払いにより利益剰余金が減少し、さらに自己株式の取得により株主資本が減少したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益を計上したものの、棚卸資産の増加や契約負債の減少及び法人税等の支払い等により、29億53百万円の支出（前年同期は46億35百万円の収入）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預け入れや有形固定資産及び無形固定資産の取得等により、118億32百万円の支出（前年同期は115億71百万円の支出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済や自己株式の取得等により、607億79百万円の支出（前年同期は313億97百万円の収入）となりました。

以上の結果、為替換算差額も含めて734億40百万円の支出となり、現金及び現金同等物の当四半期末残高は、579億48百万円となりました。

当社グループは、事業運営上必要な流動性と資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としております。手元流動性につきましては、月次売上高の約2.5か月分を目安に運転資金を確保しており、これに今後の資金需要等を加味した金額を、保持すべき現預金水準として設定しております。

また、2028年3月期までの中期経営計画における財務基本方針として、財務健全性確保と資本効率追求を両立すべく、自己資本比率50～60%程度を今後も維持すべき適正水準として設定するとともに、ROE（自己資本利益率）は中長期的に12%以上を目指すことを掲げております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の通期連結業績予想については、2023年5月11日に公表しました業績予想から変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	167,219	101,722
受取手形	2,123	1,389
売掛金	48,670	49,838
契約資産	2,627	1,952
棚卸資産	25,587	28,762
前払費用	1,973	2,913
預け金	4,716	3,920
その他	11,392	9,756
貸倒引当金	△341	△559
流動資産合計	263,968	199,696
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	38,448	46,158
減価償却累計額	△11,720	△12,324
建物及び構築物 (純額)	26,728	33,833
機械及び装置	4,032	6,862
減価償却累計額	△2,240	△2,599
機械及び装置 (純額)	1,792	4,263
工具、器具及び備品	9,105	9,272
減価償却累計額	△6,304	△6,389
工具、器具及び備品 (純額)	2,801	2,882
土地	26,294	26,287
建設仮勘定	10,283	88
その他	1,174	1,182
減価償却累計額	△500	△578
その他 (純額)	674	603
有形固定資産合計	68,574	67,959
無形固定資産		
ソフトウェア	6,128	7,969
のれん	684	714
その他	2,086	1,783
無形固定資産合計	8,899	10,466
投資その他の資産		
投資有価証券	32,538	34,234
退職給付に係る資産	23	32
繰延税金資産	3,209	2,438
保険積立金	1,497	1,547
差入保証金	3,672	3,567
その他	765	784
貸倒引当金	△250	△249
投資その他の資産合計	41,455	42,355
固定資産合計	118,930	120,782
資産合計	382,898	320,478

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	29,219	30,369
1年内返済予定の長期借入金	40,046	53
未払金	14,474	8,415
未払法人税等	4,010	4,170
契約負債	13,822	11,098
預り金	9,132	7,211
賞与引当金	4,925	4,647
返金負債	5,826	4,964
株式給付引当金	605	338
役員株式給付引当金	2,088	1,202
その他	4,765	4,895
流動負債合計	128,918	77,367
固定負債		
長期借入金	25,219	25,195
繰延税金負債	408	538
退職給付に係る負債	3,531	3,394
その他	1,648	1,899
固定負債合計	30,808	31,028
負債合計	159,727	108,395
純資産の部		
株主資本		
資本金	40,624	40,624
資本剰余金	76,290	76,290
利益剰余金	75,455	75,328
自己株式	△2,587	△16,953
株主資本合計	189,783	175,290
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,981	11,357
為替換算調整勘定	2,533	3,673
退職給付に係る調整累計額	250	187
その他の包括利益累計額合計	12,765	15,218
非支配株主持分	20,622	21,574
純資産合計	223,171	212,083
負債純資産合計	382,898	320,478

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	122,639	124,207
売上原価	77,934	83,138
売上総利益	44,704	41,068
販売費及び一般管理費	31,467	32,464
営業利益	13,237	8,604
営業外収益		
受取利息	179	599
受取配当金	564	542
持分法による投資利益	304	464
為替差益	2,635	2,016
物品売却益	35	41
その他	132	73
営業外収益合計	3,850	3,737
営業外費用		
支払利息	53	37
株式交付費	127	—
寄付金	—	※1 2,900
その他	9	14
営業外費用合計	190	2,952
経常利益	16,897	9,389
特別利益		
固定資産売却益	1	92
投資有価証券売却益	1	—
会員権売却益	39	—
関係会社株式売却益	2	157
特別利益合計	44	250
特別損失		
固定資産売却損	6	1
減損損失	—	34
投資有価証券評価損	28	172
特別調査費用	※2 156	—
解約違約金	—	7
その他	—	26
特別損失合計	191	242
税金等調整前四半期純利益	16,750	9,397
法人税等	5,660	4,272
四半期純利益	11,089	5,124
非支配株主に帰属する四半期純利益	551	998
親会社株主に帰属する四半期純利益	10,537	4,125

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	11,089	5,124
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	68	1,375
為替換算調整勘定	2,029	1,423
退職給付に係る調整額	△61	△63
持分法適用会社に対する持分相当額	16	24
その他の包括利益合計	2,052	2,759
四半期包括利益	13,142	7,883
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,138	6,578
非支配株主に係る四半期包括利益	1,003	1,304

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	16,750	9,397
減価償却費	2,614	2,918
減損損失	—	34
のれん償却額	72	72
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△203	△238
返金負債の増減額 (△は減少)	△618	△909
賞与引当金の増減額 (△は減少)	1,962	△278
受取利息及び受取配当金	△743	△1,142
為替差損益 (△は益)	△1,928	△1,606
持分法による投資損益 (△は益)	△304	△464
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	△1,533	617
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△726	△2,921
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,332	922
契約負債の増減額 (△は減少)	△1,586	△2,754
その他	△5,221	△4,767
小計	7,199	△1,122
利息及び配当金の受取額	1,211	1,641
利息の支払額	△55	△45
法人税等の支払額	△3,719	△3,426
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,635	△2,953
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額 (△は増加)	△8,287	△7,549
有形固定資産の取得による支出	△1,296	△1,704
無形固定資産の取得による支出	△1,987	△2,555
投資有価証券の取得による支出	△363	△99
投資有価証券の売却による収入	14	33
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△5	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	6
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	22
その他	354	14
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,571	△11,832
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△4	△40,021
自己株式の取得による支出	△2	△15,562
自己株式の取得のための預け金の増減額 (△は増加)	—	△436
非支配株主からの払込みによる収入	36,399	—
配当金の支払額	△4,239	△4,253
その他	△755	△505
財務活動によるキャッシュ・フロー	31,397	△60,779
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,179	2,124
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	26,640	△73,440
現金及び現金同等物の期首残高	97,579	131,389
現金及び現金同等物の四半期末残高	124,220	57,948

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

（在外子会社の収益及び費用の換算方法の変更）

在外子会社の収益及び費用は、従来、当該在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、第1四半期連結会計期間の期首より期中平均相場により円貨に換算する方法に変更しております。

この変更は、当社グループにおける海外比重の増加及び為替相場の動向を踏まえ、一時的な為替相場の変動による期間損益への影響を緩和し、在外子会社の業績をより適切に連結財務諸表に反映させるために行ったものであります。

なお、この変更による影響額は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

（四半期連結損益計算書関係）

※1 寄付金

営業外費用に計上した寄付金の内容は、学校法人設立の準備を進めている社団法人に対する支払であります。

※2 特別調査費用

特別損失に計上した特別調査費用の内容は、東京2020オリンピック・パラリンピックのスポンサー選考に係る事案に関するものであります。

(セグメント情報)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	出版	映像	ゲーム	Web サービス	教育・ EdTech				
売上高									
外部顧客への売上高	65,281	18,552	17,102	11,439	6,261	4,001	122,639	—	122,639
セグメント間の内部 売上高又は振替高	861	401	34	108	3	3,563	4,972	△4,972	—
計	66,142	18,953	17,137	11,548	6,265	7,565	127,612	△4,972	122,639
セグメント利益又は 損失(△)	5,732	60	7,592	942	1,316	△1,788	13,855	△618	13,237

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、IP体験施設の運営やキャラクターグッズ等の企画・販売等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△618百万円の主な内訳は、セグメント間取引消去1百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△619百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 地域ごとの情報

売上高

(単位:百万円)

日本	米国	アジア	その他	合計
95,087	17,054	7,236	3,260	122,639

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	出版	映像	ゲーム	Web サービス	教育・ EdTech				
売上高									
外部顧客への売上高	65,458	21,692	13,576	10,846	6,700	5,933	124,207	—	124,207
セグメント間の内部 売上高又は振替高	854	339	94	154	2	3,459	4,905	△4,905	—
計	66,312	22,032	13,670	11,000	6,702	9,393	129,113	△4,905	124,207
セグメント利益又は 損失(△)	3,255	2,504	4,028	648	1,167	△1,925	9,678	△1,074	8,604

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、IP体験施設の運営やキャラクターグッズ等の企画・販売等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△1,074百万円の主な内訳は、セグメント間取引消去5百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,079百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 地域ごとの情報

売上高

(単位:百万円)

日本	米国	アジア	その他	合計
103,966	11,610	6,818	1,812	124,207

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第2四半期連結会計期間より、従来「教育事業」としていた報告セグメントの名称を「教育・EdTech事業」に変更しております。この報告セグメントの名称変更がセグメント情報に与える影響はありません。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報についても変更後の名称で記載しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。